

最終的には吊り橋の上、  
みたいなやつ

天野順一朗

【登場人物】

男

女1

女2

マンションのベランダ。

七〇六号室、七〇五号室、七〇四号室と並んでいる。

夏の夜、二十二時頃。

通りに面しているため、車がまはらに通る。

時々、カツン、カツンと金属のぶつかる音。

七〇六号室は網戸になっており、七〇五室は戸もカーテンも閉まっている。

この二部屋には明かりがついているのに対し、七〇四号室は明かりがついていない。

七〇四号室のベランダの手すりにはロープが引っかかり、階下へと伸びているのに気づく。

カラカラと七〇五号室の戸が開き、男が出てくる。

一瞬、部屋から甲子園のニュースが聞こえる。

夏だ。

タバコに火をつけ、ふうっと蒸かす。

突然七〇六号室の戸が開まる。

男、なんとなく七〇四号室のほうに煙を吐く。

携帯電話が鳴る。

男 あーい、お疲れです。はい。うん。大丈夫だよ。OK。じゃあさ、木曜の夜勤変わったよ。そうそう。はは

は。違えし。うん。がははは。うん、うん。あ、そうだ、芝居見届、来てよ。あはは。土日にさ、

七〇六号室から女1が出てくる。

女1は上半身キャミソール姿で、前髪をヘアバンドで上げている。

目が少し赤く、そして腫れている。

女1 うるさいんだけど。

男 え？

女1 うるせえんだけどあんた凄く。

問

男 あー、じゃあ分かったらまたメールしてよ。はい。はい。ういー。

携帯電話を切る。  
男、部屋に戻ろうとする。

女1 ちよつと、

男 はい？

女1 あやまんさいよ。

男 は？

女1 あやまんさいよ、あんたさあ。

男 何で？

女1 はあ？あのさあ、うるさかったんですけど。

男 はあ。

女1 タバコの煙とか、臭いんですけど。

男 はあ。

女1 はあつて、はあ？

男 戸、閉めればいいじゃん。

女1 馬鹿じゃないの？

男 ば、

女1 暑いじゃん、閉めたら。

男 エアコンつけりゃいいでしょ。

女1 はあ！？

男 はあ？

女1 そもそもさあ、部屋で吸つてよ、あるでしょ、自分のさあ。

男 臭くなんじゃん。

女1 はあ？うちが臭いんですけど。

男 だから閉めりゃいいじゃない。

女1 暑いつて言つてんじゃん。

男 エアコンを、

女1 節電じゃん。

男 知らねえよ。

女1 節電しろよ。

男 関係ねえじゃん。何 お前？

女1 山田ですけど何か？

男 山田とか、そういうんじゃないよ。

女1 おめえ誰だよ。

男 人間だよ。

女1 サブっ！

男 うるせえよ。サブいんだつたら戸閉めろよ。

女1 節電たわ、ハゲ。

男 ハゲてねえし。馬鹿か。

女1 はあ？馬鹿って言うほうが馬鹿だし。

男 先に言ったのお前じゃねえか。

女1 つうか謝れし。

男 嫌だし。

女1 謝罪しろし。

男 日本語変だし。

女1 はあ！？

男 はあはあはあはあ、うるせえなあ。

女1 キモッ。

男 お前がな。

女1 タバコくせえし、電話うるせえし、カンカンカンカンほんとに勘弁だし。

男 カンカン？

女1 はあ？カンカンカンカンうるさかったじゃん、あんた、さつき。

男 待て待て、

女1 カンカンカンカンさあ、

男 何それ？

女1 はあ？知らないし。何なの、あんた、一体。

男 カンカンってなんだよ？

女1 カンカンカンカンだし。

男 なんだよ、それ？

女1 あんたがやってたんでしょ？カンカンカンカン。

男 だから、

女1、ハンガーで手すりをカンカン叩く。

男 うるせえな！

女1 うるせえよ！ほんと、うるせかったし！

男 うるせか、俺じゃねえよ。

女1 あんたしかいないでしょ！？電話しながら、タバコしながら、カンカンカンカン、

男 どういう状況だよ。

女1 こっちの台詞だわ！

男 電話しながら、タバコしながら、カンカンカンカン、そんな事、あれしたら、俺は「キ印」か。

女1 なんだよ、キシルンって！醤油メーカーか！

男 しょーゆー意味じゃねえよ！

間。

女1 サブっ！サブうっ！

男 うるせえ！噛んだだけだわ！キ印なんてメーカー聞いたことないわ！

女1 うちだって聞いたことねえし！

男 そういう表現だわ！キチガイ濁すときの！勉強しろ！

女1 キモ！キモい！

男 何がだ！？ハゲ！

女1 ハゲてねえわ！

男 うるせえ、外反母趾！

女1 何で知ってるんだよ！

男 知るか！

女1 外反母趾痛えんたよ！

男 知らねえよ！デコっばち！

女1 とにかくカンカン手すり叩くの止めるや！

男 だから、俺じゃねえつつうの！

女1、止まる。

いつの間にか、ロープを伝って女2が登ってきている。

男はまた気づかない。

男 何だ、お前？おいコラ、えー、山田。喧嘩売ってきたのお前だろ、オラ、何だ、急に、

女1、女2の方を指差す。

男振り返り、固まる。

まるで登山者のように女1がロープにぶら下がったまま此方を見ている。

女2の背中には巨大な武器が背負われている。

沈黙。

女2 ね。ここね。ほら、オートロックだから、ね。

男 …は？

女2 …ね。

女1 え、何これ？

女2 だから、オートロックだからね。ね？

沈黙。

女1 は？え、何？

男 女？

女2 ちよつといい？

男 え？

女2 これ、落ちちやうから。

男 ……七階ですもんね。

女2 七階から落ちたら死んじゃうから。

女1 てか、七階だし！

問。

男・女2 うん。

女1 落ちたら死ぬし！

男・女2 うん。

女2 今そういう話してたから。私、今、言ったばっか。

女1 あんた、馬鹿じゃないの！？

女2 馬鹿じゃないよ？

女1 ……はあ！？

女2 その「はあ」つての、馬鹿っぽいからやめた方がいいよ。

女1 はあ！？

女2 いいかな？

女1 何よ！

女2 落ちるから。そろそろ。

男 ああ、ああ。

女2 よっ、

女2、手すりを乗り越え七〇四号室のベランダへ。

女2 っつ。

パンパンと衣服の汚れを取る。

そしてカラカラとロープを引き上げ始める。

女1 ……誰？

女2 え？

女1 あんた、誰？

女2 よし子。

問。

女1 はあ！？

女2 だから馬鹿っぽいから。

女1 うるさいわよ！何者かって聞いてんの！

女2 よし子だって。

男 よし子さんだよ。

女1 そういうことじゃねえし！え、何、泥棒…

男 違うよ。

女1 え？

男 泥棒じゃないよ。

女1 何言ってるの？

男 だって、女の人だもん。

問。

女1 は？

男 髭はえてねえし。

女1 何その基準！ねえ！何それ！？

男 女の人は泥棒なんてしないよ。

女1 それ差別だし！

男 はあ？

女1 男女差別だし！最悪！これだから男は！

男 何だ、いきなり。お前。

女1 男女差別反対！

男 お前は平塚らいてうか。

女1 誰が青鞥社だ。

問。

男 お前、そういう知識はあるのな。

女1 女だって泥棒するわよ！クソ！泥棒！

女2 峰不二子とかね。

女1 そう、峰、あんたは黙ってるよ！もう！泥棒もタバコ吸う男も大っ嫌い！

男 タバコは関係ないだろ？

女1 うるせえ！カンカンカンカン！

男 カンカンは俺じゃねえ！

女2 あ、それ私、たぶん。

問。

男・女1 はあ？

女2 ほら、

と、手すりに引つ掛けてあったロープの先端を見せる。

そこには引つ掛けるための金具がついている。

女2 一発で引つ掛からなくてさ。

男 …ああ！

女1 あんた！

男 おい、山田！

女1 何よ！

男 俺は無実だ！謝罪しろ！

女1 はあ？

男 謝れし！

女1 嫌だし！

男 謝罪しろし！

女1 うるせえ！おめえが謝れ！

女2 まあまあ。

女1 あんたは黙ってて！

問。

女1 誰だよ！

女2 よし子だって。

男 よし子さんだよ。

女1 デジャブ！そっぴいことじゃないって言ってんでしょ！

男 えー、よし子さん。

女2 はい、よし子です。

男 あの、あなたは、あ、すみません。佐々木祐介です。はじめまして。

女1 あらあら、ご丁寧に。

二人、お辞儀

女2 何やってんのよ！

男 礼儀は大事だろうがクソ女！

女1 はあ！？

女2 「礼儀」と「クソ」って凄い組み合わせね。

男 山田！おめえもだ！

女1 …山田茉莉亜。

男 山田まりあ！？お前、山田まりあって言うの！？

女1 うるせえ佐々木！

女2 可愛い名前ね。

男 あの、よし子さん。

女2 はい？

男 僕は役者目指しながらフリーターやっています。

女2 あらあら。

男 はい。では、あなたは何をしている人ですか？

女2 私？私は会社員。

問。

男 会社員の、人が、その、ロープで、

女2 ああ、オートロックだったからね、ここ。

男 締め出されちゃったんですか？

女2 締め出された？

男 あ、つと、ここの人ですか？七〇四号室の。

女2 違う違う。

問。

男 ん？

女2 ん？

女1 ドロボー！？

男 だから髭はえてねえつつってんだろ！

女1 だからなんだよ、その基準はよ！

女2 まあまあ、茉莉亜ちゃん、落ち着いて。

女1 はあ！？

女2 興奮して動くと、ほら、外反母趾痛むでしょ？

女1 何で知ってんだよ！

女2 女の勘。

男 おお。  
女1 キーっ！  
男 うるせえ！  
女1 お前がうるせえ！

と、階下から声が聞こえる。

声 うるせーっ！

静寂。

男 すいません。

少し落ち着く。

女2 怒られちゃったねえ。

男 あの、

女2 ん？

男 あなたは、ここで、一体何をしようとしているんですか？

男、そして女1が女2を見つめる。

女2 ああ、……、私はね、実は、

女2、女1の顔を見る。

女2 あら。

女1 え？

女2 ひどい顔。

女1 ……あなた、喧嘩売ってるの！？

男 山田まりあ、

女1 ああ！？

男 怒られるから。

女、ふーんと鼻から息を吐く。

女2 ごめんごめん、そういう意味じゃなくなって、茉莉亜ちゃん、泣いてた？

女1 は？

女2 目、真っ赤よ。

女1、目に手をやる。

女2 相当泣いてたのねえ。そんなに腫れて

女1 何よ、いきなり。

女2 彼氏と別れちゃったんだ。

男 え？

女1 ……。

女2 泥棒みたいな女の子に持ってかれちゃったんだよね。

男 あはは。何いつてるんですか。こんなチンチクリンに、

女1の反論がない。

男 え、何？マジ？

女1 ……何でわかるのよ。

男 わ、マジかよ。え、何でわかるんすか？

女2 女の勘。

男 おお！なんて便利な能力なんだ。

女2 つらいわよね。わかるよ。

女1 ほっといてよ。

女2 普段なら気にならない事も、気になっちゃっやうよね、そういう時。物音とかき。

女1 ほっといてよ！

と、その時電子音。

女2 ごめん、うるさい。

女1 ええ！？

女2、腕時計型通信機で話始める。

女2 はい、こちらカール・ゴッチ。

男 カール・ゴッチ？

女2 (しっ！) いえ、何でもないです。はい。無事に。ええ。大丈夫です。はい。熟睡しているものと。ええ。目撃者は、

女2、二人を見

女2 いません。

え、という反応の二人

女2 はい。はい。大丈夫です。ラジヤ。

女2、通信を終える。

男 あの、よし子さん

女2 ごめん、私、これから仕事だから。

男 仕事って、

女2 時間がないの。佐々木君、茉莉亜ちゃん。

男 はい。

女2 うるさくしちゃってごめんね。

男 いや。

女2 もう少しだけ、ごめんね。

女1 もう少し？

女2、いきなり七〇四号室のガラスを割る。

驚く二人。

女2、そのまま突入する。

しばらく怒号が聞こえる。

おののく二人。

銃声。

男、ベランダの衝立を蹴破って七〇六号室に飛び込む。

女1 え！？

男 危ない！

男、女1を守るようにベランダの隅に避難する。

女1 え、え、何これ！？

男 知らえよ！

その間も銃声は続く。

男 あの人、え、殺し屋？

女1 わかんない！

男 山田、大丈夫か？

女1 え？

男 動くなよ！

女1 え、あ、

男 外反母趾痛くねえか？俺踏んだりしない？

女1 大丈夫！

男 一体、なんなんだよ、これ！

女1 ヤバイ！

男 あ！？

女1 え、何、ちよ、これ、佐々木 ヤバイ！ヤバイんですけど！

男 どうした！？

女1 ヤバイ！

女1、男に抱きつく。

男 ちよ、え、何！？

女1 ヤバイ！超ヤバイ！

一瞬沈黙。

男 山田、

女1 何？

男 あの、こんなときにあれだけどごめん、さっき。タバコとか、電話とか。

女1 あ、ううん。あの、私も、ごめん。

男 いや、その…、

銃声が止む。

二人、蹴破られた衝立をくぐり、七〇四号室を覗きに行く。

凄まじい閃光。

獣のような断末魔

男、女1を守るように身を返す。

静寂

二人、再び覗き込む。  
ぬっと女2が現れる。

男・女1 ひっ！

女2は顔と衣服に夥しい量の返り血を浴びている。  
二人は恐怖で声も出ず、ただただ抱き合っている。  
女2、再び通信機を取り出し、

女2 あ、カール・ゴッチ。ミッション、恙無くコンプリートです。では帰還します。

女2、通信を終え、ロープを垂らす。

男 あの！

女2、二人を見る。

男 あの、よしさんは、その、一体

女2 ここで見聞きしたことは口外しないこと。

女1 …え？

女2 じゃあね。

女2、もぞもぞと部屋から取り出し、背負う。

それは、ものすごく巨大なタコのような、グロテスクな生命体の死体らしき物であった。

呆然としている二人

女2、そのまま手すりを越え、ロープを掴む。

女2 絶対に口外しないこと。

黙ってコクコクと頷く二人。

女2、ふっと笑い。

女2 ヒューヒュー。

男 え？

女2 じゃーねー。

シユルシユルつとロープ伝いに降りていく女2。

二人、抱き合いながらその姿を目で追う。  
車の走り去る音

静寂。

顔を見合わせる。  
抱き合っていることに気づいて、離れる。  
照れや恐怖を通り越して、ただ呆然とする。

男 えーつと…

問。

女1 え、つと…

問。

男 何か、

女1 え？

男 …飲む？

女1 は？

男 いや、なんとなく。

問。

男 えー、ごめん。なんか、

女1 うん、飲む？

問。

男 うん。そうしよう。

女1 買いに行かなきゃ。

男 いや、ある。

女1 ある？

男 うん。差し入れて貰った奴がたくさん。

女1 差し入れ？

男 あ、芝居の。



女1 あ、うん、あ、役者

男 うんうん。

女1 じゃあ、いいか。

男 うん。

間。

女1 じゃ、その、お邪魔します。

男 あ、どうぞ。散らかってるけど。

女1 ああ、うん。

二人 七〇五号室に。

女1 あ、涼しい。

男 ああ、うん、エアコン。

戸がしまる。

おわり